随　筆　ヘンリー・ダイエル『技術者の教育』(7)

梅溪　昇*　山中　泰**

（前号のつづき）

日本の学生たちは，たいてい心理学や倫理学(Mental and Moral Philosophy) が好きですから，これらの勉強を勧める必要は殆んどないと思われます．彼等は外国語の初歩を覚えると，すぐ哲学 (Philosophy) に関する論文を判読しようとします．「日本の学生達に余りにもしばしばありがちなハーバート・スペンサー(Herbert Spencer)，ジョン・スチュアート・ミル (John Stuart Mill) あるいはバックル(Buckle) の著作を夢心地で見て時間を潰すよりも，何か製造技術の完全な知識を身につけた人の方が，より良き市民でありそうだ」という意見を，私が2年前に述べたのは，時間の浪費よりも更に悪いことに反対を唱えたものでありました．それは，何人かの敵意のある批評家が推論したように，これらの著者についての勉強が諸君にとってつまらないものだと私が考えたからではなくて，むしろ勉強するならば適切な条件のもとで，きちんと何らかの目的に従ってやるべきで，読書自身目的としてあがめられるべきでないということでした．このことに関してハーバート・スペンサー自身がつぎのように言っているのを傾聴しなさい．

「教科書や読物におけるこの信用というものは，時代の迷信の一つである．知的文化への手段としてさえも，書物はひじょうに過大評価されている．間接的な知識 (second-hand knowledge) は，直接的な知識 (first-hand knowledge) より劣るものとされず，また直接的な知識が得られない場合にのみ探し求めらるべき知識とされず，実際にはもっと価値のあるものとされている．印刷された頁から集められたものは，教育課程にはいると考えられているが，人生や自然の観察から得たものは，かくは考えられていないのである．読書というものは，代理人を通して見ることであり，直接に自分の能力を通してでなく，他人の能力を通して間接的に学ぶことである．しかし一般に行われている偏見はこのようなもので，間接的な学習が直接的な学習より好ましいものとされている．これは教育の名を侵害するものである．われわれは，野蛮人が書きものを一種の魔法と考えていると聞かされてほほえみ，またある黒人が他所へ届けるように言いつけられた果物を自分で食べてしまい，自分の悪事を密告されないように，案内状を石の下にかくした話を聞くとわれわれはあざ笑う．しかし印刷された情報についての世間通用の考えは，これと同類の思い違いをしている．人為的なしくみによって得られた考えは，他の方法によって得られた考えにくらべ，不思議な効力があるように思われている．この思い違いは，知的文化を傷つけ，また読書や学習の繰り返しによって道徳的なものまで得られるという仮説を生み出すことにより，道徳文化にもさらに大きな害を与えるのである。」

時々哲学の勉強を嫌い，あるいは嫌っているように見せかける人々を見かけます．例えば，少し以前に私は新聞で有名な英国の政治家の演説を読みました．彼はその演説の中で，形而上学の読書について聴衆に警告し，「真実でないあることを仮定することにはじまり，やがてばかばかしいことに読者を到達させる形而上学に関する書物を読むよりもディケンズの小説 (Dickens's novels) を読んだ方がよほどましである」と語っています．その講演者は，以前文部大臣に等しい地位にあり，彼の形而上学に対する軽蔑は，当時彼が作成し，あるいは作成

* 梅溪　昇 (Noboru UMETANI)，大阪大学文学部，大阪大学教授，文学博士，日本近代史
** 山中　泰 (Tai YAMANAKA)，アメリカ合衆国，エモリー大学卒（ギリシア古典学部），大阪大学文学部研究生

しようとした幾つかの途方もない規則を説明しています．何となれば，立法者の失敗は，行動の真の理論のもとになる精神科学の基本的な事実を無視することによってしばしば生まれるからであります．

しかしながら，諸君の中で立法者になる可能性のある人は少ないと思います．そして，もしもその分野にしか哲学という学問が適用されないというのであれば，諸君にその学問をお勧めしても無駄でありましょう．しかし，物理学の分野においても，形而上学は適用されるのであって，学生は“原子”(atom)，“力”(force)，“真空”(vacum) 等の概念形成にあたって，彼が意識する，しないにかかわらず，形而下から形而上の世界 (from a physical to a metaphysical sphere) へと連れ込まれていくのです．思想の科学 (the science of thought) を無視して，自分の経験を通してだけで一つの世界をつくり上げようと試みる者は，そうすることにおいて，実際にはなしで済ませると臆断しているということを忘れているのです．何となれば，もっとも簡単な観察でも，それは1個の独立した事実ではなくて，心にあらわれくる事実であり，それ自体の重要な部分としての思想をもっているのであります．

それゆえに，経験科学の学生にとっても，思想の法則は価値のあるものであります．私は繰り返し言いたいのでありますが，このような研究の第一の目的はすべての機能を動員して精神を養うこと (to cultivate the mind) であり，それには哲学が最高に適しています．わがスコットランドの最もすぐれた哲学者の一人が申しましたように，「心 (the soul) の研究ほど，心を満たし，満足させるものはない．また，いかなる他の科学も，人間の自覚がみずからの思考のために提供する威厳——絶対的な価値においてであれ，相対的な価値においてであれ，——に匹敵するものではない．＜何がすべてのことの中で最良であるか？＞とキロン(Chilon) は神託に聞いた．その答は，＜汝自身を知ることだ (To know thyself)＞ということだった．実際に，このことがすべての人が常に興味をもっている唯一の科学である．なぜならば，各個人はそれぞれに一番好きな仕事をもっているかも知れないが，＜人類固有の研究題目は人間である．(the proper study of mankind is man.)＞というのは，いつまでも人類について真実である．」と．

哲学は，精神の科学に限定されるものではなく，道徳的な管理者としてわれわれの行為を支配する法の科学である倫理学も含むものであります．この学問は，日本では悲しいことには虐待をうけている学問の一つであります．そして倫理学 (moral philosophy) に関する書物を読んだり，講演を聞くだけで人間が道徳的になると考えられているように考えられているようであります．このことについてハーバート・スペンサーは，つぎのように言っています．「行為の改善や犯罪の減少は，知的教育からではなく，道徳教育から求められることは私も承知しているところである．たしかに教育計画を推進する人々の多くは，一般に知識の道徳的効果を信じるが，また一般的知識では不十分であり，正しい行動の規則が教えられなければならないと主張する人々もいることを認めなければならない．しかしながら，彼等のように，道徳的訓誡というものは，知的に受け入れられるものだという前提ですすめられている限り，それらについての期待すらも錯覚である理由が既に与えられている．そして，その他にも多く理由が続くのである．私は中国人によって示されている前提について長々と反ばくする積りはない．中国人のすべては，孔子のあの高尚な倫理的格言 (the high ethical maxims of Confucius) を教え込まれているにかかわらず，それに比例した模範的な行為をわれわれに示したことがない．」と．

なお彼はさらに道徳教育が道徳に影響を及ぼすには無力である例をあげていますが，それらは自分で読むようにお願いしなければなりません．

もし暇があれば，ぜひとも書物で倫理学を勉強しなさい．しかし，専門教育と同様に，書物から得た知識よりも，実際の観察や世間での経験の方がはるかに効果のあるものです．道徳律に背いて受ける所罰を個人的に経験するか，さ

もなければ他人について観察することは，それによってまず最初特別な意志作用を起こし，のちには取得した習慣となることによって，抽象的な道徳についての講演を何度聞くよりも効果があります．

所罰に対する恐怖の方が，講演や読書よりも効き目があるけれども，人類の道徳的向上のためには不十分であります．そこには，人間に正しいことをしたいという気持ちを起こさせる要素が依然として欠けて（makes men *disposed* to do what is righr）おり，その要素は宗教（Religion）であります．諸君の社会の規則は，賢明にも集会において教理的な神学の問題についての紹介を禁止していますが，完全な教育（a complete education）に必要なことを論ずるには，知識と道徳的善の基礎をなすものについて黙っているわけにはいきません．日本におけるある有名人が私に向って，＜自分の意見では，日本人はすでに思考の宗教的段階を経て，今や科学的，哲学的段階に到達するに至った．＞と申しました．しかしこのような意見を信じてはなりません．諸君は個人として，あるいは国民として，いずれであれ何らかの宗教を持たずに確実な向上をすることができると考えるのは，全くの誤りであります．カーライル（Carlyle）が言ったように，「諸君はあらゆる国民の歴史において，これがあらゆる国民の源泉と基礎にあったことを見出すであろう．偉大な未知の，全能の，全知の，公正な神が存在して，宇宙に住むすべての人々やすべての事柄を支配しているという，畏敬の念に打たれ，かつ敬けんな信仰をもってこのばらしい宇宙を考えなかった国民はいなかったことが判かるであろう．それを忘れた国民や人は，大したものになれない．もし人がそれを忘れたならば，この世における自分の使命の最も大切な部分を忘れたことになる．」

日本でその著作が多く読まれ，また教義的な神学の普通の形を特に好んでいると非難されることのない，現代の科学的，哲学的作家のある者でさえも，人間性の大望・愛情・感情の要求を満たしてくれるものは科学や哲学の冷たい真実の中には見出すことができず，宗教の必要なことを主張しています．

きっと諸君は，年をとるに従い，自分の心を犠牲にして頭脳だけが発達したというような，科学の分野で優れた人々を見ることになりましょう．そういう人々は，真の科学精神が全く欠けており，学問の探究も自然界や真理への愛に対する献身から発するものでなく，単にその友人達からの感嘆に満足するところの過度の利己主義によるものです．そして彼等の唯一の目的は有名になることのようであります．彼等の全精力はこの目的のために使われ，その精神は萎縮し，良心はにぶっています．時にはその卑劣さのためにわれわれは憤慨し，その悪徳さにわれわれは恥かしい思いをさせられます．そういう人達は，単なる科学的寄生虫（scientific parasites）であり，科学者（scientific men）の名にふさわしくなく，自分に役立つためにのみ，科学に従事しています．他方において，人間の行動や結果を考えつくし，これをもとに自分の指針のために，一つの道徳体系を敷く哲学者がいます．しかも彼等は，愛すべき人ではなく，たいてい尊敬とあわれみとがまじった気持で見られる人々であります．彼等は概して美徳のつまらない気性をもち，殆んど全く人々への同情の気持ちに欠け，また彼等は健全な宗教的感情によって阻止されないので，しばしば，突然不道徳な行為を犯すのであります．

現在では，日本はかって人間の頭脳から考え出されたあらゆる形の哲学・宗教，または非宗教の熱心な主唱者に恵まれています．（もしかしたら，呪われていると言った方が正しいかも知れません．）哲学においては，理想主義（idealism）・経験主義（empiricism）・物質主義（materialism）・唯心論（Spiritualism）・功利主義（utilitariansm）・直覚説（intutionalism）の主唱者があり，また宗教においては，最も単純な形の信条から最も精巧な独断論や儀式主義（dogmatism and ritualism）があり，さらに非宗教では低俗な講壇演説（platform oratory）から哲学的無神論（philosophic atheism）があります．

日本の青年が当惑していること，また疑問・動揺・不決断の一般的感情があることは，無理

のないことです.

こういう事柄に関して，とりあえず私が与えることが出来る唯一の助言は，あらゆる可能な機会に自分独特の意見を諸君に押しつけ，また教養のない大衆の拍手に喜ぶような人々の仲間を避けるということです．自分でこれらのことをよく考え，それらに関する良書を読み，そして機会があれば，誰か賢明にして思慮のある人と，自分の疑問や困難について話し会いなさい．なお宗教的な事柄については公開の論議を避けなさい．それは激しい感情を起こし，またすでに存在する信仰をたしかめる効果しかないからであります.

諸君はその代わりになるより良いものを見つけて満足するまでは，先祖の宗教を捨ててはいけない．それは，さきに私が述べたように，何らかの宗教は社会の必要な基礎であり，それなくては，全体の組織が不安定であり，かつ長持ちしないからであります．さらに宗教は諸君が持っている知識の中に示されるのではなく，諸君が送る生活の中に示されるものであります.

「正しい生活をしなさい（Live well)．そうすればどんなに早く死んでも，
永遠の生命を与えられるであろう.」

以上，私はこの社会で諸君の注意をひくかも知れない主要な問題にふれてきました．その目的は，普通の大学課程に含まれていない研究を力づけるのが目的でありました．その問題のあるものに関しては，将来詳しく取り扱う機会があるかも知れませんが，本日の目的は，諸君が自分の前にひろがっているフィールド（field）の一般的な調査をするさいの手助けに過ぎないのであります．（つづく）